

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「個人に最適化された社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

場面や状況により変化するひとの幸福な状態を再現性高く計測・評価する技術に基づく新サービスの創出

3. 研究開発課題名

個人の最適化を支える「場の状態」: 個と場の共創的 Well-Being へ

4. 研究開発代表者名(機関名および役職は評価時点)

内田 由紀子 (京都大学人と社会の未来研究院 教授)

5. 評価結果

評点: S 特に優れている

総評:

本研究開発課題は、多様な個人の最適化は「場」によって支えられるという社会科学の知見の下、「場」の状態を計測する技術開発、ならびに個人の Well-Being を最適化する「場」の状態を生み出す要因の特定を行い、社会実装を目指すものである。

探索研究では、「場」という東洋的な感覚(協調的幸福・協調的感情)に根差した「感性的なもの」に対し、科学的に実証する独自性の高い挑戦的な研究を行った。具体的には、「場」の協調的幸福・協調的感情を、個人の日記からのテキストデータ及び幸福度を表す数値データとして時系列に集約し、社会科学・情報・工学系の各要素技術を融合した独自の解析技術により、データの動的変化を捕まえ、「場」の Well-Being な状態を推測可能とした。また、「個人」と「場」の2者間のモデルに基づいた「場」の状態の可視化を初めて実現し、「個人」と「場」の状態を最適化する要因の特定につながる大きな成果をあげたと評価する。

さらに、職場環境を重視する企業の関心を引き、複数の企業と連携した調査研究を展開した点も高く評価する。

今後は、3者間以上での「場」の状態の可視化、予測モデルの確立、及び社会実装の実現に向けて、本技術の研究開発が発展することを期待する。

以上